

製品名: CARP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07933**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	ANKRD1
別名	ANKRD1; C193; CARP; HA1A2; Ankyrin repeat domain-containing protein 1; Cardiac ankyrin repeat protein; Cytokine-inducible gene C-193 protein; Cytokine-inducible nuclear protein
遺伝子 ID	27063.0
SwissProt ID	Q15327
免疫原	抗血清はヒト ANKRD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 231-280

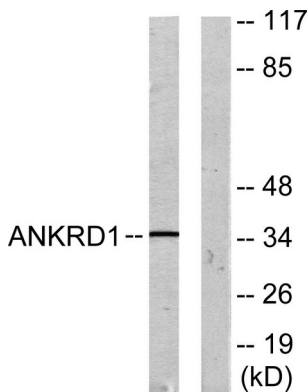
背景

アンキリンリピートドメイン 1 (ANKRD1) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は内皮細胞の核に局在

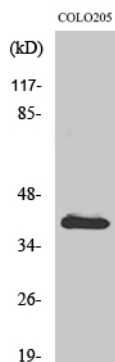
し、IL-1 および TNF- α 刺激によって誘導されます。ラット心筋細胞を用いた研究では、この遺伝子が転写因子として機能することが示唆されています。このタンパク質と筋節タンパク質であるミオパラジンおよびタイチンとの相互作用は、このタンパク質が筋原線維伸展センサー系にも関与している可能性を示唆しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：ANKRD1 の欠陥は総肺静脈還流異常症（TAPVR）の原因となる可能性があります [MIM:106700]。TAPVR はまれな先天性心疾患（CHD）で、心臓の発育中に肺静脈が左心房に接続できず、代わりに右心房またはその静脈支流に流れ込みます。この疾患はすべての CHD の 1.5% を占め、有病率は約 15,000 出生児中 1 人です。機能：内皮細胞の活性化に重要な役割を果たす可能性があります。心臓遺伝子の発現を負に制御する核転写因子として作用する可能性があります。誘導は、肝細胞癌細胞のアポトーシス細胞死と相関しているようです。誘導：TNF、IL1A、およびパルテノライドによるものです。その他：ANKRD1 領域の染色体異常は、総肺静脈還流異常症（TAPVR） [MIM:106700] の原因である可能性があります。転座 t(10;21)(q23.31;q11.2)。この転座は、位置効果によって 10 番染色体上の近傍遺伝子の発現パターンを変化させると考えられ、この染色体再編成によって発現パターンが変化する遺伝子の中で、ANKRD1 が TAPVR 病態の有力な候補遺伝子として浮上した。この再編成は、既知の遺伝子を阻害しないと考えられる。類似性：5 つの ANK リピートを含む。サブユニット：YBX1 と相互作用する（類似性による）。TTN/タイチンと相互作用する。組織特異性：主に活性化血管内皮細胞で発現する。少量ではあるが、肝癌細胞でも発現する。

研究分野

画像データ



ANKRD1 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CARP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析